

2013年11月21日
慶應義塾大学 SFC 研究所

慶應義塾大学 井庭崇研究室 パターン・ランゲージの考え方と歴史を紹介する ドキュメンタリー映像サイトを開設

慶應義塾大学 SFC 研究所 井庭崇研究室は、「パターン・ランゲージ」の考え方と歴史を紹介するドキュメンタリー映像サイト「Generative Films」(ジェネレイティブ・フィルムズ: <http://www.generativefilms.org/>)を開設します。よいデザインを生み出すための実践知を言語化する「パターン・ランゲージ」の方法は、建築分野で考案された後、ソフトウェア開発や創造活動一般に応用されてきました。本サイトでは、各分野の専門家にインタビューを行った映像を公開していきます。第一回配信(2013年11月22日)では、パターン・ランゲージの方法をソフトウェア開発分野に応用したワード・カニンガム氏をはじめとした3本のインタビュー映像を公開します。ぜひご取材ください。

パターン・ランゲージとは

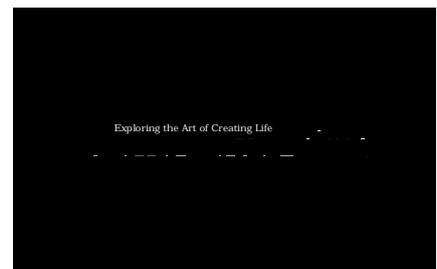
パターン・ランゲージは、建築家クリストファー・アレグザンダーが提唱した知識記述の方法です。アレグザンダーは、町や建物に繰り返し現れる関係性を「パターン」と呼び、それを「ランゲージ」(言語)として共有する方法を考案しました。彼が目指したのは、誰もがデザインのプロセスに参加できる方法でした。ある「状況」で生じる「問題」をどのように「解決」すればよいのかという「デザインの知」を記述するパターン・ランゲージの方法は、ソフトウェア開発や、創造活動一般を支援する方法として広がっています。

慶應義塾大学総合政策学部 井庭崇准教授は、パターン・ランゲージの方法を創造的な人間行為の支援に応用し、国内外で先導的な立場で研究・実践を進めています。これまでに制作した主なものとしては、創造的な学びを行うための「ラーニング・パターン」、創造的なコラボレーションを実現するための「コラボレーション・パターン」、創造的なプレゼンテーションをつくるための「プレゼンテーション・パターン」、「いきいきと美しく生きる」ための「Generative Beauty Patterns」などがあります。このうち、プレゼンテーション・パターンは書籍としても出版されており、本年度のグッドデザイン賞を受賞しています。

Generative Films (ジェネレイティブ・フィルムズ)

近年パターン・ランゲージの方法が注目 / 再認識されていますが、いくつかの異なる専門分野にまたがるため、その全体像をつかむことが難しいのが現状です。そこで、各分野からの視点で語られたものが一カ所に集められていれば、いつでも誰でもパターン・ランゲージの考え方や歴史、魅力を深く知るきっかけになると考えました。こうして、パターン・ランゲージに関するドキュメンタリー映像サイト「Generative Films」(ジェネレイティブ・フィルムズ: <http://www.generativefilms.org/>)を立ち上げることにしました。

Generative Films では、パターン・ランゲージに関係する建築 / ソフトウェア / 人間行為の分野の方々にインタビューを行い、その映像を公開していきます。映像はテーマごとに 5~10 分くらいの単位にまとめられ、それらが相互に関係づけられています。視聴者は、自分の興味・関心に合わせて自由な順番で映像を見ることができます。なお、映像には日本語と英語の字幕がつけられています。2013年11月現在、すで



に約 20 人のインタビューを終えており、それらは順次公開予定です。第一回配信(2013 年 11 月 22 日)では、ウォード・カニンガム、リチャード・ガブリエル、ジェニー・キュリアンの 3 人のインタビューを公開します。

初回公開映像のご紹介

ウォード・カニンガム 「ソフトウェア・パターンが生まれたとき」

(Ward Cunningham: The Starting Point of Software Patterns)

建築分野で考案されたパターン・ランゲージの方法は、1980 年代後半にウォード・カニンガムとケント・ベックによって、ソフトウェア分野へと応用されました。ウォード・カニンガム氏は wiki システムの考案者として世界的に有名ですが、実はパターン・ランゲージの新しい流れをつくった人でもあるのです。そのときの経緯について、ご本人に語っていただきました。



リチャード・ガブリエル 「ライターズ・ワークショップのはじまり」

(Richard Gabriel: The Beginning of Writers' Workshop)

パターン・ランゲージの内容・記述を洗練させるための方法に、「ライターズ・ワークショップ」があります。ライターズ・ワークショップは毎年パターン・ランゲージの国際学会で開催され、20 年程の歴史があります。このワークショップではパターンの著者は発言できず、それ以外の参加者たちがそのパターンについて語り合うというユニークなスタイルがとられています。そのスタイルにはどのような意味があるのか、そしてそれはどのように始まったのかについて、ライターズ・ワークショップの導入者にお聞きしました。



ジェニー・キュリアン 「A Pattern Language から The Nature of Order へ」

(Jenny Quillien: History from A Pattern Language to The Nature of Order)

パターン・ランゲージの考案者クリストファー・アレグザンダーは、パターン・ランゲージの本を出版した後、約 30 年間かけて *The Nature of Order* という大著の執筆に取り組みました。それはどのような問題意識にもとづいて書かれ、パターン・ランゲージとはどのように関係するのでしょうか？ *The Nature of Order* の執筆・編集に携わり、その内容を紹介する本 *Delights Muse* も出版しているジェニー・キュリアンさんに解説していただきました。



*ご取材の際には、事前に下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

*本リリースは新聞各紙社会部、web ニュース等に送信させていただきます。

このプレスリリースに関するお問い合わせ先

慶應義塾大学 井庭崇研究室 Generative Films Project (井庭、村松、木根淵、鈴木、南雲、イム)
E-mail: ilab-film@sfc.keio.ac.jp / ウェブサイト: <http://www.generativefilms.org/>
Facebook URL: <https://www.facebook.com/generativefilms>

慶應義塾大学湘南藤沢研究支援センター 河越、西村
〒252-0882 神奈川県藤沢市遠藤 5322

TEL: 0466-49-3436 / FAX: 0466-49-3594 / E-mail: kri-pr@sfc.keio.ac.jp

ORF 開催準備日(21 日)、開催日(22 日・23 日)につきましては、03-3470-1206 までご連絡ください。